

県社会福祉に関する要望への対応状況（令和3年8月）

新規 継続	要 望 事 項
【1】	予算要望
継続	<p><u>1. パソコンボランティアの養成の再開について</u></p> <p>視覚障害は情報障害であり、情報の入手や発信において様々な困難を抱えています。最近ではICT技術の発達により、読み上げソフトや音声入力などのサポートの活用、あるいは点字ディスプレイとの接続などによって、パソコン操作の利便性が高まっており、情報の入手、発信が可能となっています。</p> <p>しかしながら、パソコン機器の購入相談や障害特性に応じた支援ソフトの導入、操作上のトラブル解決等においては、専門的なサポートが欠かせません。</p> <p>本県では、茨城県障害者ITサポートセンターが相談に応じていますが、自宅に出向き問題解決にあたるパソコンボランティアが不足しており、県北地域には派遣が皆無であるなど、地域的偏りも問題となっております。</p> <p>このような現状に鑑み、平成20年度を最後に途絶えているパソコンボランティアの養成を再開し、全県あまねくパソコンボランティアの派遣が可能となるような体制づくりを要望します。</p>
対応 状況	<p>【障害福祉課】令和3年度予算 5,066 千円（障害者IT活用支援事業費）</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年3月31日現在において、登録ボランティア数は124名（県北28名、県央37名、県南34名、県西11名、鹿行14名）であり、令和元年度は190回障害者のご自宅等にボランティアを派遣し、各種相談及び対応を行ってまいりました。 登録ボランティアの中には高齢化や種々の事情により、活動が困難な方もいるため、実際の活動者は登録者より少ない状況です。 また、ボランティアの派遣については、ボランティアの活動範囲の関係から派遣地域の制約もあるところです。 しかしながら、近年、ソフト制作会社等において「設定・操作・トラブル解決」などの対応により、多くの課題は解決されていると聞いております。 今後も各地域の状況把握などについて茨城県障害者ITサポートセンターと連携を図りながら、視覚障害者の方の情報の入手等について支障がないよう検討してまいります。